

Y02a 生涯学習のきっかけ作りとしての星空観望会 一周南公立大学地域ゼミでの実践一

道山知成 (周南公立大学)

SDGs の目標「質の高い教育をみんなに」が示すように、持続可能な地域発展には誰もが学べる場の提供が必要不可欠である。しかし、科学館が生涯学習の重要な拠点である一方で、全ての自治体が科学館を設置することは難しい。本研究では、科学館のない地域において「非専門家が提供する星空観望会」を生涯学習のトリガーとして提案・実践し、その学びの多様性と可能性を評価することを目的としている。

本講演では、山口県周南地域を対象に、2023 年 12 月、2024 年 8 月、9 月、さらに 2024 年 12 月に実施予定の星空観望会の成果を基に、参加者と運営を担当した大学生へのアンケートを質的に分析し、非専門家による観望会運営の課題を議論する。観望会では、望遠鏡（口径 80mm 程度）2 台（自動追尾ありとなし）とテレビ望遠鏡 1 台を使用し、月、木星、土星を観測した。月の観察は全ての望遠鏡で問題なく実施でき、観望会参加者の反応も良かった。一方で、木星や土星の観測では担当者ごとの操作の得手不得手が顕著であった。また、テレビ望遠鏡を用いた星雲の観測は簡単に成功したものの、現実感に欠けるため、参加者の理解を深めるには専門家の解説が必要であることが明らかになった。今後は、アンケート結果の量的解析も含めたさらなる試行を通じて、地域社会における「非専門家が開催する星空観望会」の最適化を図り、持続可能な生涯学習の場を提供する方法を探求していく。